

# 学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



## 子どもたちとともに生活し遊ぶ保育者の仕事

子ども教育学部子ども教育学科教授 石橋由美

保育所や幼稚園、認定こども園は、子どもたちが生活し、遊ぶ場です。そこで働く保育者の仕事は、子どもたちとともに生活し、遊び、世話をすることです。

仲間や保育者と一緒に楽しい食事を味わい、眠り、排泄し、遊び、そして自然（空や植物など）の美しさや生命にふれる生活。保育者は、心地よい生活の仕方を子どもと一緒に考え、作り出していきます。

保育者は、一人ひとりの子どもの声に耳を傾け、子どもが自らの力を使って現在（いま、ここ）を充実して生きることを支えます。子どもは現在を生きた結果として、何かができるようになったり、わかるようになったりするのです。「できるようになったり、わかるようになったり」するために、現在を生きているわけではありません。

「遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけむ」（『梁塵秘抄』）。遊びにこそ人間の生きる意味があります。我を忘れて夢中になって遊んでいる子どもたちは、未来や過去でなく、現在（いま、ここ）を生きる喜びにあふれています。ワクワク、ドキドキするような遊びのなかで体験される「おもしろい」という感性は、生きることの実感になっていくでしょう。保育者は、子どもの心の動きに合わせて、遊びのおもしろさをふくらませ、子どもたちや保護者に「おもしろい」という感性を伝えていくことができます。

本学科の学生が、生き生きと遊ぶ子どもの姿にふれながら、子どもの気持ちに寄り添い、遊びのおもしろさを伝えていけるような教員・保育者として育っていくことを期待しています。